

# 研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&amp;FAX : 0595 (21) 8839

E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp



## 研修講座 特別の教科 道徳

「道徳科の特質を生かし、『考え、議論する』授業～道徳科におけるいじめ教材をどう扱うか～」

【講師】 岐阜聖徳学園大学 河合宣昌先生

8月18日（金）、岐阜聖徳学園大学の河合宣昌先生をお迎えし、研修講座「特別の教科 道徳」を実施しました。初めに、道徳科の特質と「考え、議論する」授業について話をいただきました。

道徳科の特質とは・・・

- ①学校の教育活動全体で道徳性を養い、道徳科の授業において補充・深化・統合していく。
- ②道徳的価値の理解を基に、価値理解・人間理解・他者理解・自己理解へとつなげていく。
- ③内面的資質の育成（行為を育てるのではなく、心を育てる。）

「考え、議論する」とは・・・

- ①「考え」とは自分の考えをもつこと。
- ②「議論する」とは交流して、仲間の考え方や感じ方を理解し、考え方や感じ方を深めること。

次に、いじめ教材での授業のポイントについて2点ご指導いただきました。1つ目に、いじめの事象からどの内容項目を扱うのか明確にすること、2つ目に、いじめの集団性や継続性にも着目して、いじめられている子のつらい気持ちに共感させることが大切であることを学びました。その後、いじめ教材（小学2年生「およげないりすさん」と中学1年生「むかで競走」）をもとに河合先生の模擬授業を体験しました。今回は体験した授業の一部「およげないりすさん」の導入と発問について紹介します。

導入の工夫・・・かめとりすのペープサートを活用して、主人公の紹介をし、友だち同士のお話であることを視覚的に理解できるようにする。

発問の工夫・・・人間理解の発問として「りすは友だちなのに、りすを島へつれていけないのは、どうして。」と問いかけ、子どもが考えをもちやすいようにする。

価値理解の発問として「昨日は、りすを連れて行かなかったかめが、どうしてりすを甲羅にのせて島へ連れて行ったのだろう。」と問いかけ、人間理解の場面とつなげる。

実際に授業を体験し、人間理解・価値理解で終わるのではなく、自己を見つめる発問をすることで一人ひとりが自己を振り返ることが大切であることを学びました。本講座で学んだことを各校・園で還元していただくとともに2学期からの実践に活かしていただきたいと思います。

### アンケートより【一部抜粋】

・いじめ教材での授業ポイントがよく分かりました。いじめられている子の気持ちを聞いて終わりではなくその後「つらい気持ちの深い理解」まで発展して、発問していく必要性を強く感じました。(小)

・今までの道徳科の授業で「他者を理解する」ところまでで終わってしまっていたことに気づけました。交流することを通して、自分の気持ちがどう変容したかをまとめることで「確かな自己理解」へとつなげていくことが大切であることを学びました。(中)